

東京都の植木生産 東京都植木農業協同組合の取り組み

緑は、私たちの生活において欠かせない大切な要素です。生活に潤いを与えるだけでなく、生物多様性や防火樹等、様々な機能を有しています。

中でも、公園や街路樹の緑は、私たちの生活にとって最も身近な存在です。

これらの緑は、その多くが新規に植えられたものであり、苗木を供給する生産者の思いが込められています。

今回は、東京の公園や街路樹等の緑づくりに携わる造園業と密接な関係にある植木生産事情について「東京都植木農業協同組合」の取り組みを取材しました。

東京の植木生産は、江戸期以降、多種多様な樹種が地方から集まり、卓越した生産者の技術により、独自の発展を遂げてきました。

昭和39年に東京都三多摩植木苗木生産団体連合会が発足され、更なる組織強化を図るため昭和47年に農業協同組合として設立されました。



組合員数は、現在521で、多摩地区を中心に活動されています。東京で使われる植木の多くは、街路樹や公園樹木として公共で使われています。

ますが、東京都産の植木は、全体の3割程度が現状です。また、東京2020オリンピック・パラリンピックの需要が期待されたものの、好況にいたることはなく、民間需要に頼っているのが現状です。

組合では、活動の強化を図るため緑化植物供給可能量調査を通じ植木流通を担う「販売事業」、組合員に良質で安価な商品を提供する「購買事業」、植木生産の普及・啓発や、東京都からの苗木栽培管理委託等の「指導事業」に取り組んでいます。一方では、後継者不足、生産緑地法改正への対応等、直面する課題が山積しているとお話を伺いました。

瀧柳組合長は、「厳しい状況にあるが、東京都への要望活動や造園業界、花卉関連業界等、関係団体とのさらなる連携を図って、東京都産の植木が活用されるよう力を尽くし、東京の緑を支えていきたい」との力強いお言葉を頂きました。

この度、お忙しい中、取材にご協力を頂いた瀧柳嘉市代表理事組合長はじめの野口健一常務理事には、感謝申し上げます。

各コース募集中!

関連講座一覧

- 建築施工管理技士 ◆1・2級エクステリアプランナー
- 管工事施工管理技士 ◆給水装置工事主任技術者
- 電気施工管理技士 ◆CPDS認定講習

母や企業研修など、人材育成についてご提案致します。

20-243-229
10:00~PM5:00(土・日・祝日は除きます)